

令和元年度 第1回環境審議会

議案第4号 ポイ捨て等調査結果について

- ① ポイ捨て等禁止重点区域（梅郷駅周辺）のポイ捨て等調査結果
- ② 重点区域（梅郷駅周辺）以外のポイ捨て等調査結果

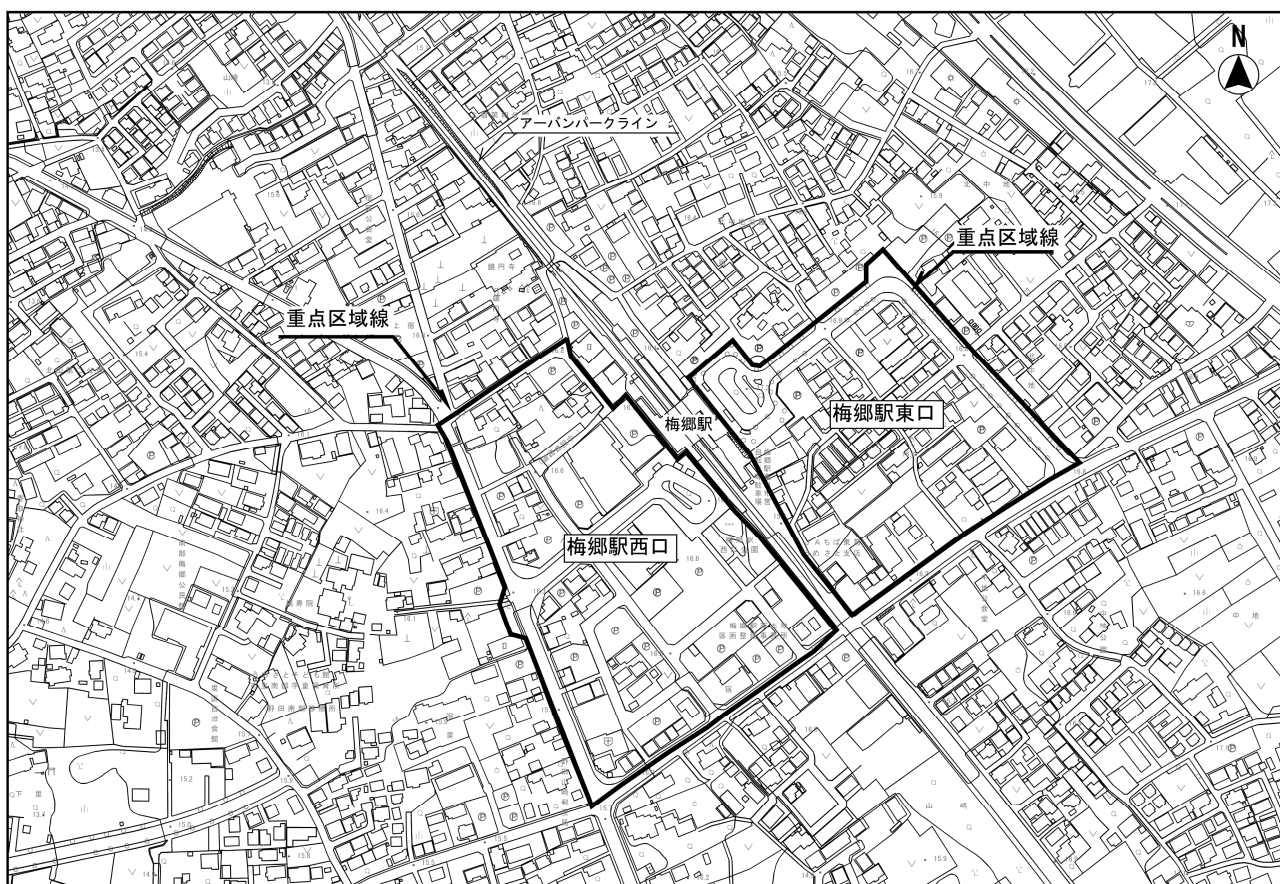
令和2年2月19日

1 ポイ捨て等禁止重点区域のポイ捨て等調査結果について

野田市ポイ捨て等禁止及び環境美化を推進する条例第 11 条に基づき、平成 28 年 4 月 1 日に指定した重点区域について、その効果を検証するため、重点区域内の路上喫煙やポイ捨ての現況調査を平成 28 年度から 29 年度は職員によるパトロールを実施し、30 年度からはより一層、市民の環境美化への意識の高揚を目的に委託によるパトロールに切り替えています。従いまして、30 年度からは、これまでの月 3 回のパトロールから月 6 回のパトロールに増大しています。

(1) 調査場所（下図のとおり）

- ① 梅郷駅東口周辺 約 4.1 h a
- ② 梅郷駅西口周辺 約 5.4 h a



(2) 調査期間

平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月

ただし、報告は平成 31 年 4 月～令和元年 12 月までのデータとします。

月 6 回 原則、火曜日、木曜日に実施、ただし、隔週で水曜日のみを実施

(3) 調査内容

重点区域内のポイ捨て状況を把握しながら違反喫煙者の有無を確認し、歩行喫煙者や携帯灰皿を使用していない違反行為者に対しては、歩行喫煙等が禁止行為であることや重点区域内であることを周知し指導する。

- ① 違反喫煙者 歩行喫煙者、携帯灰皿を使用していない喫煙者数の把握
委託による調査時間 7:30～8:30、
防犯パトロール推進員による調査時間 17:00～17:30
- ② ポイ捨て 吸殻、缶、ビン、ペットボトル等のポイ捨て状況の把握

(4) 調査結果

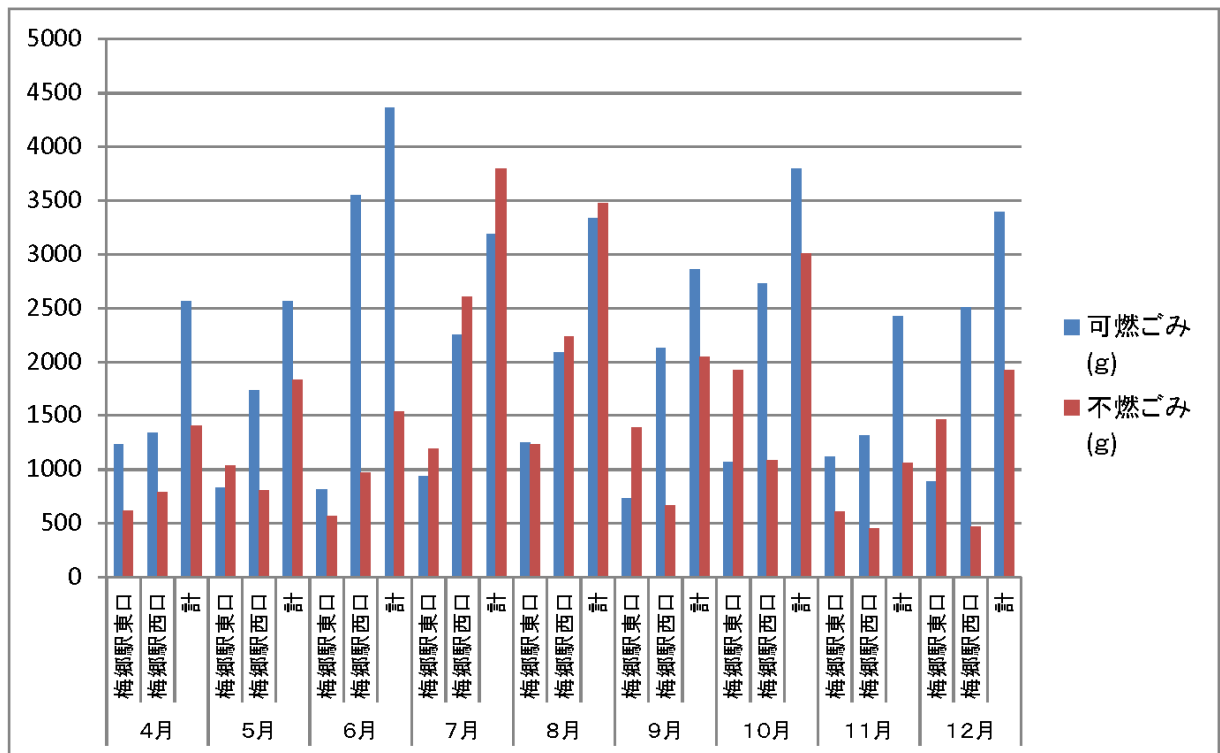
1) 重点区域におけるポイ捨て状況

① ポイ捨て状況

ア 可燃・不燃ごみ

図-1 に示すとおり、元年度は、6月にピークを迎え、その後減少傾向を示し、10月に再度上昇する現象がみられました。30年度も、夏場にごみ量が減少し秋口にごみ量が上昇する動きを示しており、30年度と同様な動きを示しています。

図-1 ポイ捨て状況(可燃・不燃ごみ)



② 過去3年間の経年変化（たばこの吸殻）

過去3年の吸殻のポイ捨て状況をまとめたものを以下の表に示します。

表-1 吸殻ポイ捨て数の推移（平成29年度～令和元年度）

4月～12月迄		吸殻数(本)	平均/月・パトロール	全体平均
元年度	東口	7,374	410	306
	西口	3,649	203	
30年度	東口	9,480	527	413
	西口	5,386	299	
29年度	東口	3,214	357	423
	西口	4,397	489	

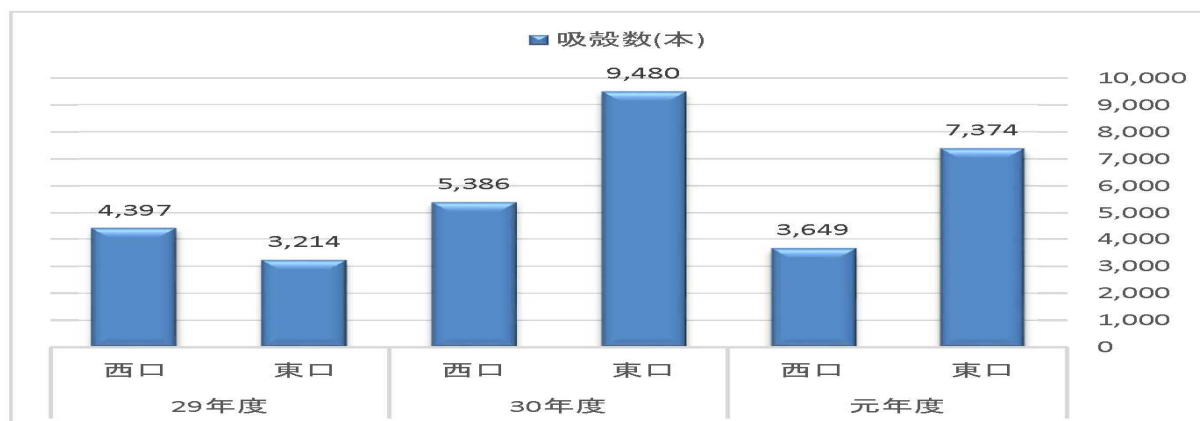
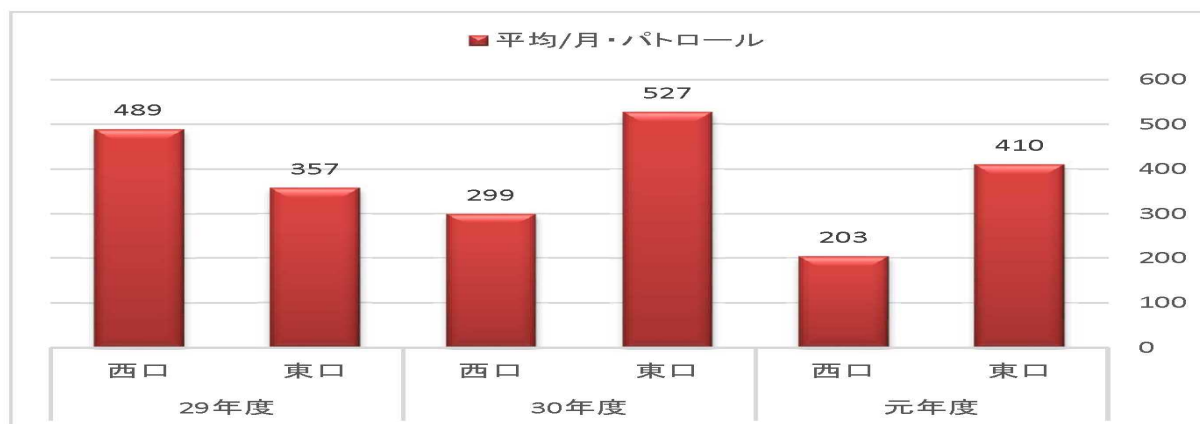


表-1 に示すとおり、平成30年度の数値が増加していますが、これはパトロール調査回数を月3回から6回に増大したことにより、吸殻を拾う本数が増えたものと考えられます。調査本数を調査した月数9で割って、さらに、30、31年度の調査本数を1/2に補正し平準化したものを以下に示します。



平準化した3年間の吸殻本数の推移は、東口は30年度に再上昇し、西口は、3年間をとおして減少傾向を示しています。

③ 過去3年間の経年変化（可燃ごみ）

過去3年の可燃ごみのポイ捨て状況をまとめたものを以下の表に示します。

表-2 可燃ごみポイ捨て数の推移（平成29年度～令和元年度）

4月～12月迄		可燃ごみ (g)	平均/月・パトロール	全体平均
元年度	東口	8,860	492	792
	西口	19,662	1,092	
30年度	東口	18,276	1,015	862
	西口	12,746	708	
29年度	東口	5,960	662	953
	西口	11,195	1,244	



表-2に示すとおり、可燃ごみの推移は、西口は年々増加していますが、東口については、30年度に著しく増加しましたが、元年度に半減しています。原因は、不明ですがパトロールの回数を増やした以外の理由があると思われます。参考にごみ量を調査した月数9で割って、さらに、30、31年度の調査量を1/2を掛けて補正し、平準化したものを以下に示します。



平準化した数値では、元年度は、西口は前年比54%増加する一方で、東口は52%減少する結果となっています。

④ 過去 3 年間の経年変化（不燃ごみ）

過去 3 年の不燃ごみのポイ捨て状況をまとめたものを以下の表に示します。

表-3 不燃ごみポイ捨て数の推移（平成 29 年度～令和元年度）

4 月～12 月迄		不燃ごみ (g)	平均/月・パトロール	全体平均
元年度	東口	10,030	557	558
	西口	10,069	559	
30 年度	東口	13,555	753	701
	西口	11,670	648	
29 年度	東口	7,305	812	991
	西口	10,540	1,171	

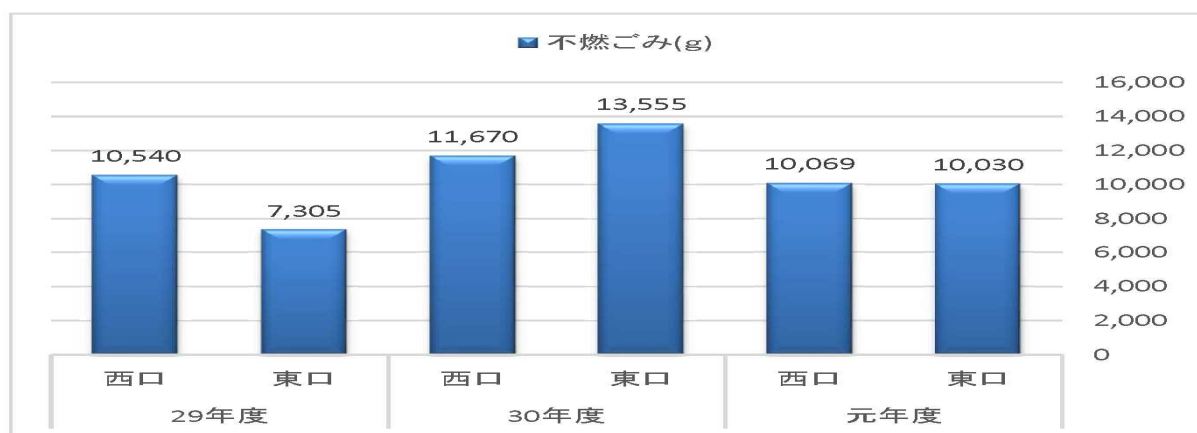


表-3 に示すとおり、不燃ごみの推移は吸殻と同様、平成 30 年度の数値が若干増加していますが、これはパトロール調査回数の増大により、ごみを拾う量が増えたことによるものと考えられます。ごみ量を調査した月数 9 で割って、さらに、30、31 年度の調査量に 1/2 を掛けて平準化したものを以下に示します。



平準化した 3 年間の不燃ごみの推移は、東口、西口ともに年々改善されています。

2) 重点区域の違反喫煙者の状況について（令和元年度）

駅前広場において違反喫煙者の状況をまとめたものを表-4に示します。

表-4 違反喫煙者の調査結果一覧

実施月	箇 所	時間帯	携帯灰皿なし	歩行喫煙	吸殻ポイ捨て
4月	梅郷駅東口	7:30～ 8:30	0	0	0
	梅郷駅西口	7:30～ 8:30	0	0	0
	小 計		0	0	0
5月	梅郷駅東口	7:30～ 8:30	0	4	0
	梅郷駅西口	7:30～ 8:30	0	1	0
	小 計		0	5	0
6月	梅郷駅東口	7:30～ 8:30	0	0	0
	梅郷駅西口	7:30～ 8:30	0	0	0
	小 計		0	0	0
7月	梅郷駅東口	7:30～ 8:30	0	0	0
	梅郷駅西口	7:30～ 8:30	0	0	0
	小 計		0	0	0
8月	梅郷駅東口	7:30～ 8:30	0	2	0
	梅郷駅西口	7:30～ 8:30	1	1	0
	小 計		1	3	0
9月	梅郷駅東口	7:30～ 8:30	0	0	0
	梅郷駅西口	7:30～ 8:30	0	1	0
	小 計		0	1	0
10月	梅郷駅東口	7:30～ 8:30	0	0	0
	梅郷駅西口	7:30～ 8:30	0	0	0
	小 計		0	0	0
11月	梅郷駅東口	7:30～ 8:30	0	0	0
	梅郷駅西口	7:30～ 8:30	0	0	0
	小 計		0	0	0
12月	梅郷駅東口	7:30～ 8:30	0	0	0
	梅郷駅西口	7:30～ 8:30	0	0	0
	小 計		0	0	0
4～12月計	梅郷駅東口	小 計	0	6	0
	梅郷駅西口	小 計	1	3	0
	合 計		1	9	0

令和元年4月～12月までのパトロール中に確認された違反喫煙者は、携帯灰皿なしの状態で喫煙している人は、1名が西口で確認されています。

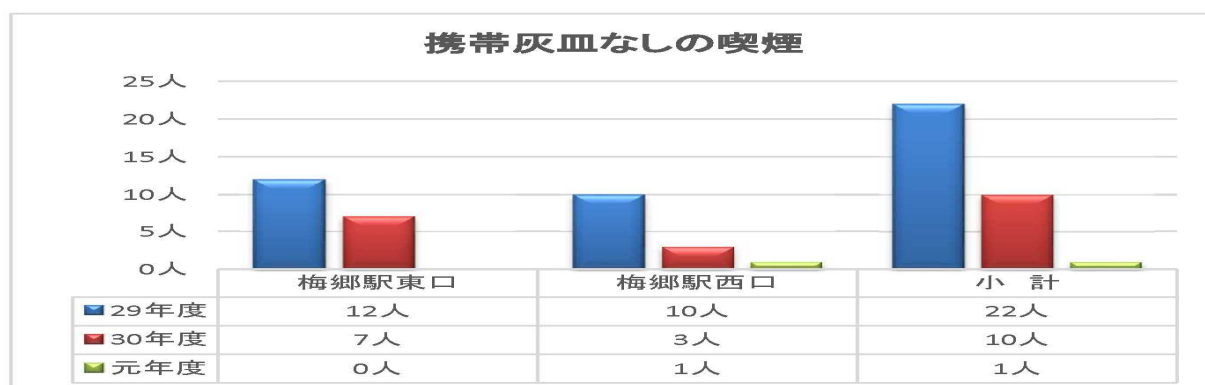
また、歩行喫煙者は、9名確認されており、そのうち6名が東口でした。

① 過去3年間の違反喫煙者（灰皿なしでの喫煙）の推移について

過去3年間の灰皿なしでの喫煙者数をまとめたものを以下の表に示します。

表-5 過去3年間の灰皿なしでの喫煙者数

4月～12月までの数値	携 帯 灰 皿 な し		
年度	29 年度	30 年度	元年度
梅郷駅東口	12 人	7 人	0 人
梅郷駅西口	10 人	3 人	1 人
小 計	22 人	10 人	1 人



灰皿なしでの喫煙者数は、東口及び西口共に減少傾向を示しております。これは、違反喫煙者防止キャンペーン活動やパトロールの抑止効果と考えています。

② 過去3年間の違反喫煙者（歩行喫煙）の推移について

過去3年間の歩行喫煙者数をまとめたものを以下の表に示します。

表-6 過去3年間の歩行喫煙者数

4月～12月までの数値	歩行喫煙者		
年度	29 年度	30 年度	元年度
梅郷駅東口	27 人	3 人	6 人
梅郷駅西口	30 人	6 人	3 人
小 計	57 人	9 人	9 人



歩行喫煙者数は３０年度に東口及び西口とも激減しており、喫煙者の意識にも、歩行喫煙はマナー違反として根付いてきた表れと考えています。

(5) まとめ

重点区域全体の３年間の調査結果を見ると、ポイ捨て状況は、たばこ吸殻、可燃ごみ、不燃ごみ共に減少を示しています。しかし、東口のたばこのポイ捨てについては、３０年度に急上昇する残念な結果となっています。原因は不明ですが、パトロール中の違反喫煙者は、確実に減少していることから、パトロール員の目が届かないところで、未だポイ捨てをする人が減らない状況であることが推察されます。

従いまして、２年度以降も、市民（喫煙者）のモラルを高めることが環境美化に欠かせない手段であることから、より一層のマナーの周知徹底を図るため、市民等に対し直接呼びかけるパトロールを継続すると共に、ポイ捨て防止キャンペーンを実施してまいります。

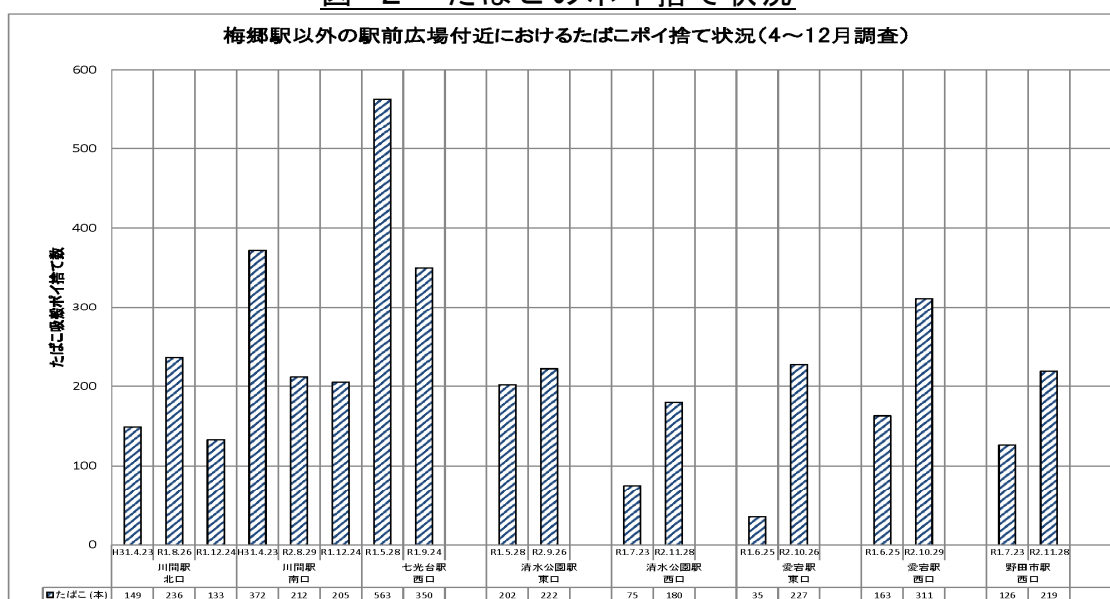
2 梅郷駅以外の駅周辺のポイ捨て等調査結果について

重点区域以外の駅についても、ポイ捨て状況や違反喫煙者の状況を把握するため、年に3回程度調査を実施しています。

(1) ポイ捨て状況（たばこの吸殻）

吸殻のポイ捨て数は、29年度調査に引き続き七光台駅西口が1回当たりの調査で500本ほど確認されていますが、川間駅南口で減少傾向を示しています。特に、七光台駅西口の減少は顕著であり3回目の調査に注視してまいります。また、清水公園駅東西口、愛宕駅東西口、野田市駅西口で増加傾向を示しており、今後の動きを注視する必要があると考えています。

図-2 たばこのポイ捨て状況

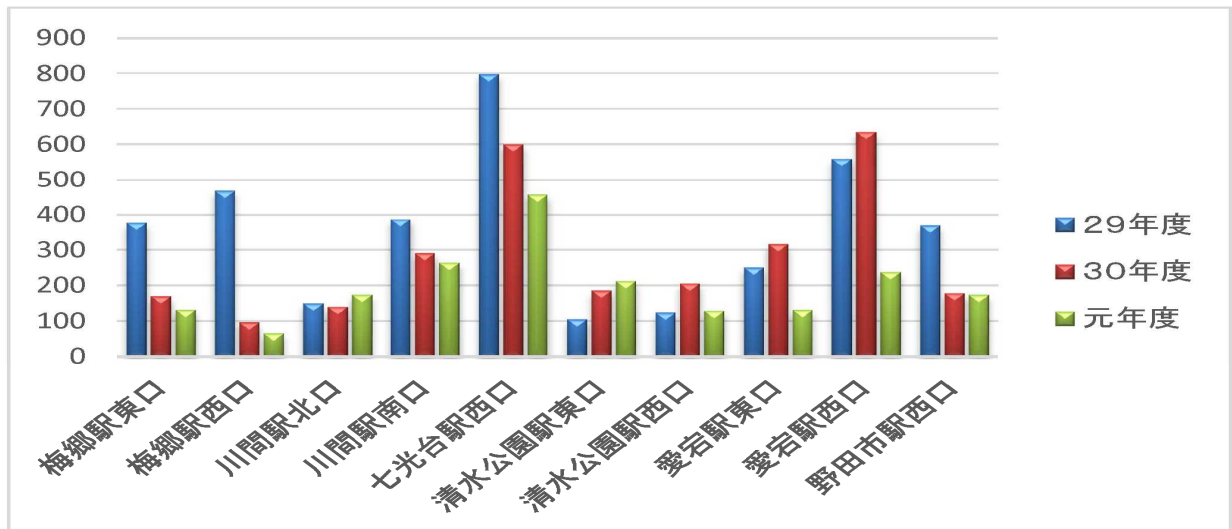


過去3年間の調査結果の推移を表-7に示します。

表-7 過去3年のたばこポイ捨て数の推移（本/回）

	29年度	30年度	元年度
梅郷駅東口	376	169	131
梅郷駅西口	468	96	65
川間駅北口	149	139	173
川間駅南口	386	290	263
七光台駅西口	797	600	456
清水公園駅東口	105	185	212
清水公園駅西口	123	205	128
愛宕駅東口	250	316	131
愛宕駅西口	559	635	237
野田市駅西口	368	178	173
合計	3,581	2,813	1,969

図 2-1 過去 3 年のたばこのポイ捨て状況

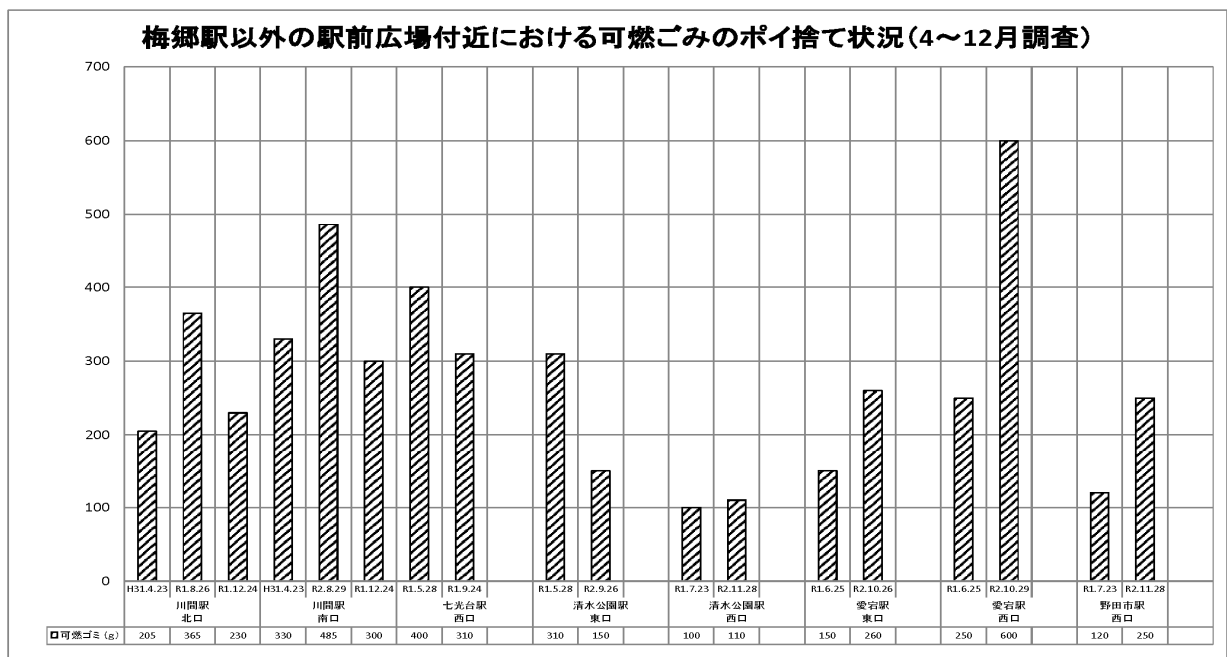


過去 3 年間の推移は 3 年間をととして上昇傾向を示している駅は、清水公園駅東口 1 ヶ所であり、30 年度から元年度に掛けて再上昇している駅は、川間駅北口の 1 ヶ所となっています。また、元年度に掛けて改善がみられる駅は、川間駅南口、七光台駅西口、清水公園駅西口、愛宕駅東西口、野田市駅西口の 6 ヶ所となっています。特に愛宕駅西口は、約 62% の減少が確認されており、2 年度の動きに注視してまいります。

(2) ポイ捨て状況（可燃ごみ）

可燃ごみのポイ捨て状況は、29 年度に引き続き愛宕駅西口で最大値を示しており、600 g となっています。各駅の元年度の平均値は、川間駅南口及び七光台駅西口で調査 1 回当たり約 350 g であり、それ以外の駅は、200 g 程度と比較的きれいな状態となっています。

図-3 可燃ごみのポイ捨て状況

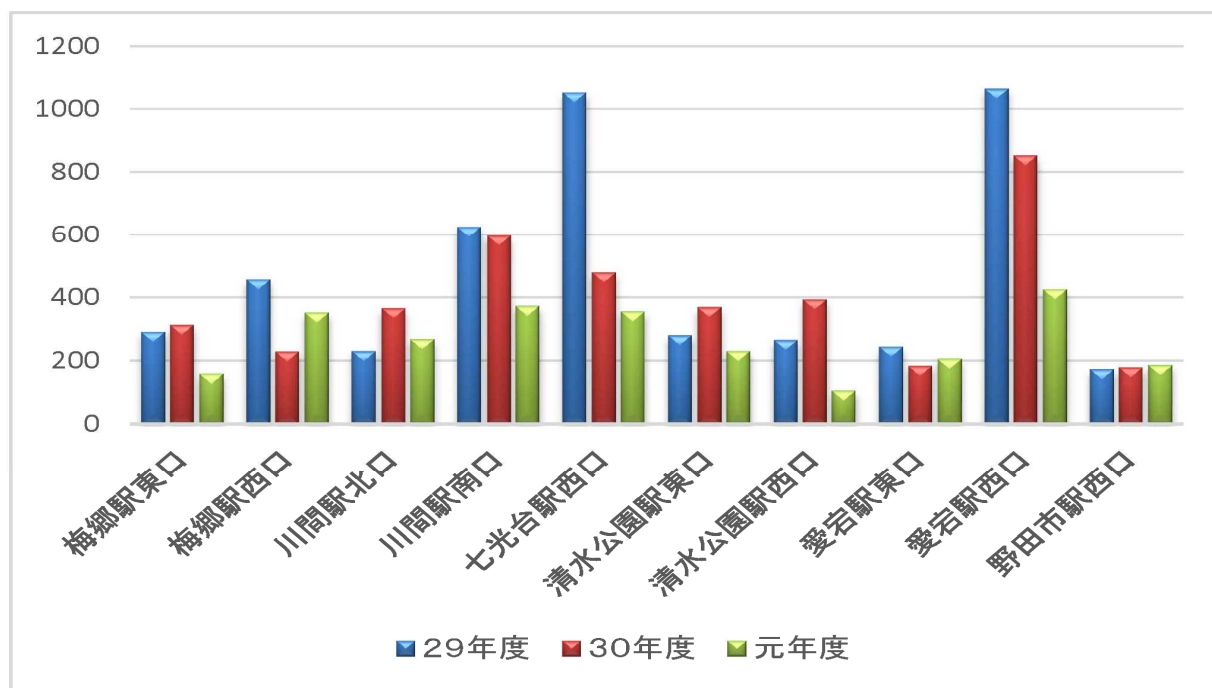


過去3年間の調査結果の推移を表-8に示します。

表-8 過去3年間の可燃ごみの推移 (g/回)

	29年度	30年度	元年度
梅郷駅東口	290	312	158
梅郷駅西口	456	228	351
川間駅北口	230	365	267
川間駅南口	625	597	372
七光台駅西口	1052	478	355
清水公園駅東口	280	368	230
清水公園駅西口	265	393	105
愛宕駅東口	243	183	205
愛宕駅西口	1063	853	425
野田市駅西口	173	178	185
合計	4,677	3,955	2,653

図 3-1 過去3年の可燃ごみのポイ捨て状況



過去3年間の推移として、3年間をとおして減少傾向を示している駅は、川間駅南口、七光台駅西口、愛宕駅西口の3ヶ所となっており、30年度から元年度に掛けて再上昇している駅は、愛宕駅東口、野田市駅西口の2ヶ所となっています。

(3) ポイ捨て状況（不燃ごみ）

不燃ごみのポイ捨て状況は、たばこの吸殻と同様に七光台駅西口で最大値を示しており、780 g となっています。各駅の元年度の平均値は、川間駅南口、七光台駅西口で調査1回あたり 400 g 程度となっていますが、それ以外の駅は、100 g ～300 g 程度となっています。

図-4 不燃ごみのポイ捨て状況

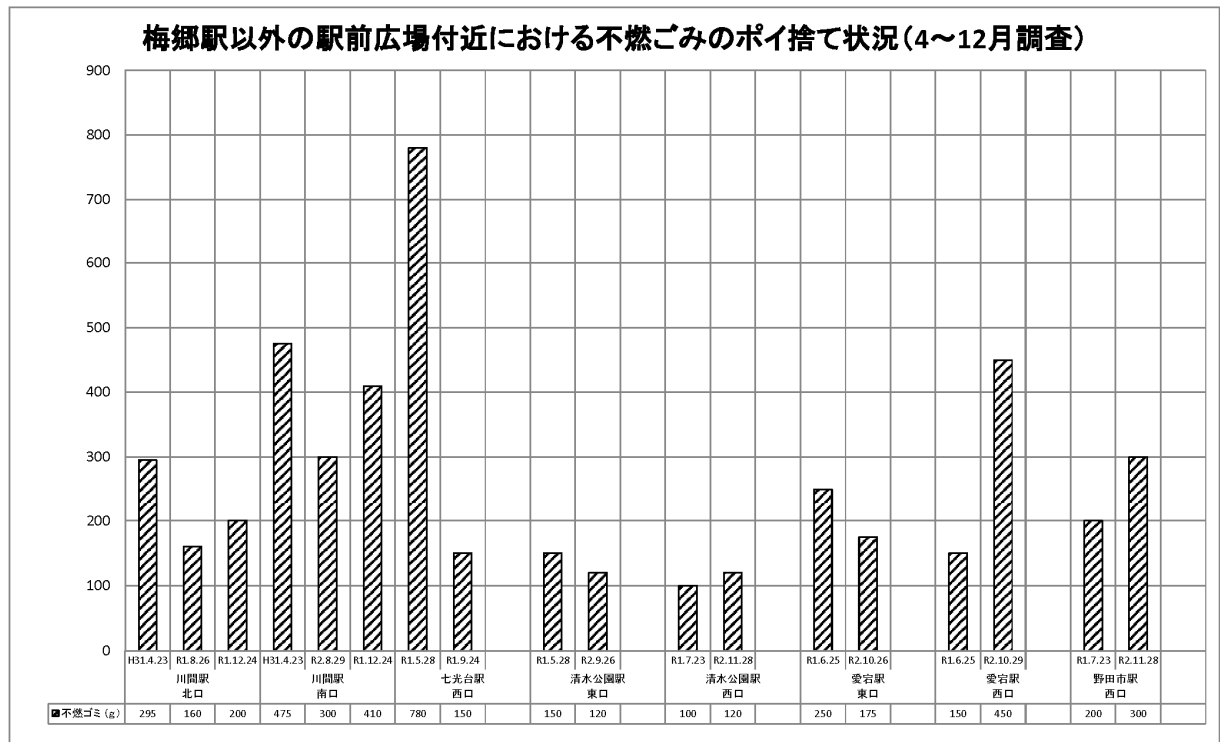
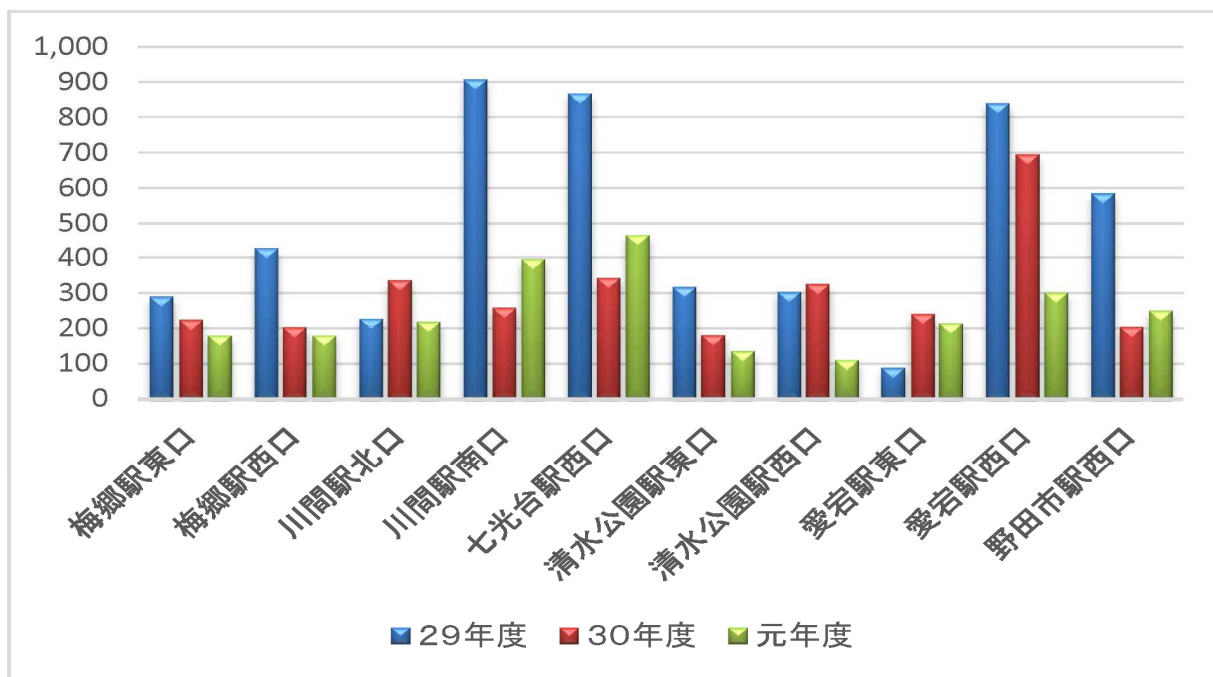


表-9 過去3年間の不燃ごみの推移 (g/回)

	29年度	30年度	元年度
梅郷駅東口	289	223	179
梅郷駅西口	426	202	179
川間駅北口	227	335	218
川間駅南口	907	257	395
七光台駅西口	867	342	465
清水公園駅東口	317	180	135
清水公園駅西口	303	325	110
愛宕駅東口	88	240	213
愛宕駅西口	840	695	300
野田市駅西口	585	203	250
合計	4,848	3,002	2,444

図 4-1 過去 3 年の不燃ごみのポイ捨て状況



過去 3 年間の推移として、3 年間をとおして減少傾向を示している駅は、清水公園駅東口、愛宕駅西口の 2 ヶ所であり、可燃ごみとは異なる結果となりました。30 年度から元年度に掛けて再上昇している駅は、川間駅南口、七光台駅西口、野田市駅西口の 3 ヶ所となっています。

(4) まとめ

市内全域の駅周辺の状況としては、年々収集量が減少しており改善が見られますが、駅ごとに見てみると、愛宕駅東口、清水公園駅東口、清水公園駅西口がきれいな印象となっています。一方で、駅前に店舗がある愛宕駅西口や七光台駅西口が汚れている印象となっています。川間駅北口については、たばこの吸殻や可燃ごみが減少していますが、不燃ごみについては、元年度に再び上昇する傾向を示しています。

毎年、近隣 17 市の喫煙マナー向上・ポイ捨て防止合同啓発キャンペーンを 10 月に実施しており、昨年も重点区域の梅郷駅に加え、川間駅、愛宕駅、七光台駅で啓発用のティッシュや携帯灰皿の配布を行い、啓発活動を継続していきます。



野田市環境審議会資料に対する質問について【議案第2号】

委員名	質問箇所	質問	回答
上口委員	5 環境への負荷の少ない社会の実現 表3-5(5頁) 地球環境保全への貢献に係る環境指標等の達成状況 5-2 水質環境の保全 ◎公共下水道普及率について	公共下水道の環境の指針では、公共下水道のインシヤルコスト、住宅密集地では概ね公共下水道の普及はしてきたとの見解がある。今後は、水質保全を合併浄化槽に舵を切りつつあることを承知している。野田市では今後何年間を下水道の普及率の計画があるのかお聴きしたい。	野田市では公共下水道(汚水)整備と合併浄化槽の普及を並行して進めています。公共下水道整備については、当面の目標として市街化区域内の整備完了に向けて重点的に進めているところです。 下水道普及状況については、公共下水道を整備する予定区域内の人口換算では約78%に達しており、市街化区域の整備が完了すると約88%に達する見込みです。 なお、一般的な総人口に対する現在の普及率は約67%となっています。(下水道課)
		また、合併浄化槽(単独処理・みなし浄化槽)からの転換と補助金に関しての考えをお聞きたい。(年度別=件数・補助金額等)	引き続き公共下水道区域外の合併浄化槽の普及に努めていきます。 なお、平成30年度は14基の実績でしたが、問い合わせが多いことから、令和元年度は20基の要望をしましたが、16基の実績に留まっております。令和2年度は啓発も含めて20基を予定しています。(下水道課)
		大事な課題として、建築確認による(新築・建売を含めて)合併浄化槽の法定点検(7条、11条)・保守点検・清掃の指導状況が見えない。単独浄化槽から合併浄化槽の入れ替えは補助金制度で、法定点検・清掃の説明、講習会などで周知がなされつつあるなか、新築住宅では現状は把握しきれないことが問題と考えている。	建築確認申請は、限定行政庁として市で扱う申請とそれ以外の県で扱う申請に分かれ、さらに全てを取り扱う民間審査機関に分かれます。 確認申請を伴う設置届や確認申請を伴わない設置届は、所轄の健康福祉センター(保健所)が窓口となり千葉県(健康福祉部健康福祉対策課)が把握し、その情報により千葉県知事(環境生活部水質保全課)より指定された指定検査機関(公益法人 千

		野田市として現状と今後どのように指導を行うかをお聞きしたい。	千葉県浄化槽検査センター、一般財団法人 千葉県環境財団) が浄化槽法第7条及び第11条の検査・指導を行うことから届出件数等は、把握しておりません。 なお、市又は県が審査する物件に対し、不適当な浄化槽の設置や不適当な流末処理の場合には、所轄の健康福祉センター（保健所）と連携し行政指導を行うこととなります。（都市計画課・建築指導担当）
添野委員	1 自然との共生の確保 表3-2（2頁）の項目について	1-1 里山の保全と活用、1-2 自然との触れ合いの確保、1-3 生物の多様性の保全に対して、平成30年度に比べて注記が省略されているので、注記は省略しない方が良いのではないかと。	ご指摘のとおり修正させていただきます。（環境保全課）
	表3-3（3頁）快適な都市環境の確保に係る環境指導等の達成状況についての項目について	2-4 歴史的文化的遺産の保護・継承に対して平成30年度に比べて注記が省略されているので、注記は省略しない方が良いのではないかと。	ご指摘のとおり修正させていただきます。（環境保全課）
		市に寄贈された鈴木貫太郎記念館はどんな扱いになっているのか。	鈴木貫太郎記念館は、財団法人鈴木貫太郎記念会が昭和38年に建設し、昭和41年に関宿町に移管されました。貫太郎翁の夫人であるタカさんが当時の関宿小学校児童と建物の前で撮った写真が残っているなど、貴重なものではありませんが、文化財として指定や登録はされていません。（生涯学習課）
	1 河川の水質状況における14頁の表6-4利根運河における水質調査及び表6-5河川の	利根運河水質調査（年平均）の平成30年度の大腸菌群数が（表6-4）では220,000（MPN/100ml）、（表6-5）1,200,000（MPN/100ml）と前年に比較して異常に増加しているが、その原因は。	水質調査を実施している国交省に確認しましたが明らかな原因の特定はできないとのことでした。 可能性としては、大腸菌類数は、河川の濁りや渇水で巻き上げが起こることによって自然由来の大腸菌を拾ってしまい、値が大きくなること。

	水質状況経年劣化について		また、水温や流量でも値に影響がでる性質があることから利根運河は水深が浅いためそのような影響が大きく出やすいと考えられるということでした。（環境保全課）
--	--------------	--	---

野田市環境審議会資料に対する質問について【議案第 3 号】

委員名	質問箇所	質問	回答
添野委員	環境に関するアンケート調査結果について 問7環境を良くしていく取り組みについて中の17頁市民アンケート及び37頁事業者アンケート結果について	現状は野田市環境基本計画、野田市環境調査報告書に対しても、市民、事業者とも10人のうち7人(70%)は関心を持っておりません。 ホームページを見て市民・事業者とも10人のうち5人は関心を持っていても実行に移す人はいないのではないかな。 この現状をしっかりと踏まえて市民に対する関心高揚策を今後検討していくことが大切ではないかな。	今回のアンケート結果だけで見ると環境問題に対して、意識が高いことが伺えます。 市民や事業者が今後の野田市の環境問題を考えるうえで、「野田市環境基本計画や野田市環境調査報告書」により一層の関心を持って頂けるように努めたいと考えます。そのためには審議会において、委員の皆様から貴重なご意見を頂戴しながら、より良い計画を策定したいと考えます。

野田市環境審議会資料に対する質問について【議案第4号】

委員名	質問箇所	質問	回答
上口委員	P2. (4) 調査結果	梅郷駅、東口西口の月別ポイ捨て件数表示での疑問。 データは一目で理解できる、このデータは単に発生件数のデータでは誤解を生ずることを危惧する。 東口西口の乗降客数がベースとしないと東口のマナーが著しく悪いとの印象を持たれる。今後の調査では、時間・人数の制約があるとは承知しているが、乗降客の人数との整合性には言及の必要性があるものとするが如何ですか。	東武鉄道のホームページによると、2018年(平成30年)の梅郷駅の一日平均乗降客数は17,375人となっており、前年比106人増となっています。 東口、西口の乗降客数について、市では統計的なデータを持っていません。しかし、東口側には南部工業団地などの送迎バス多く乗り入れていることから、乗降客数が多いものと推測されます。 今後も同様の調査を実施していくことから、試験的に1時間当たりの乗降客数を数えるなど、東口、西口の乗降客数の把握に努めたいと考えます。
	P8. (5) まとめ	東口、西口の比較をしているが、結果のみの比較でしかない。なぜ、どうして、には言及していない。 決定的な違いは、ロータリーの植え込み環境に起因しているところにあることも理解する必要がないか。 もう一つ、西口にはスーパー、ドラッグストアなど人の目が多くポイ捨てがしにくい環境にあることもあるものと考えられる。 西口はロータリーの花壇に草花が植えられ、きれいになっている、その一方東口は植え込みの雑草が長時間刈られていない状態がある。そのことの分析が今後の対策に生かされるのではと考えるが如何でしょうか。 ポイ捨てをし難い環境を作ることを提案したい。	駅前の植栽や店舗等の立地状況により、ポイ捨てがしやすい・しづらいの環境にあると考えられる。しかし、愛宕駅西口や七光台駅西口のように、駅周辺にスーパー等があっても、ポイ捨て調査1回当たりのたばこの吸い殻が多い駅前もあります。 また、空き缶等はポイ捨てしたときの音がしない場所に集中するとも言われていることから、除草作業を頻繁に行うことも有力な手法とも考えられます。 やはり、ポイ捨てを減らすには市民一人ひとりのマナー向上が重要と思われます。そのためにも、「喫煙マナー向上・ポイ捨て防止合同啓発キャンペーン」を継続するとともに、マナー向上に繋がる方法等の検討をしていきたいと考えます。